

金山町…

・豊かな景観と、
地域住民の生活が密接
→ 穏やかでのんびりした生活を
味わえる。

・行政と民間企業・地域住民が
一体となって景観を守る意識
を持っている
→ 持続可能な景観づくり

周辺の街並みの伸びしろ





景観の維持には人手が必要

・若者の流出数をどう減少させるか
・観光客が「金山町に住みたい」と
思えるようなまちづくり

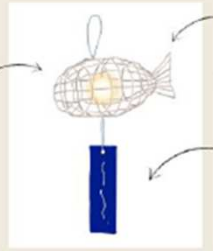
活動が見えず「静かな街」と感じる

・金山らしさを保ちつつ、
現代的なデザインも取り入れる
・「暮らしの風景」を活かす

鯉あかりの構造

金山杉の細い材を
編みあげた球体を基本に、
鯉の輪郭を表現。

この灯りを参考に



中にLEDライトを入れることで、
編みの隙間から柔らかい光がこぼれる。

下に短冊を吊るす。
表には金山まつりの概要が、
裏には住民の思いが綴られる。





短冊の仕様



金山杉の薄板または布を使用。
表面：金山まつりの概要や日程を印刷
裏面：自由に思い出や願い事を書ける

布地の色

金山町の景観になじむカラー展開を用意。



デザインのポイント

・金山杉の温かみと鯉のモチーフにより、
金山らしさを表現 → 景観を壊さない
・昼間は鯉のオブジェ、
夜は光の演出として楽しめる
・観光客も参加することができ、
思い出が金山町に残る → 愛着の形成
・街中を歩きまわり、近づくことで
住民の思いに触れていくことができる

1．設置する

町内の住宅やお店の軒先などに設置。
普段は鯉のオブジェとして楽しめる。

2．書く

短冊の裏面に、願い事や思い出など
自由に書きたいことを綴る。

3．持ち歩く

設置場所から取り外し、灯りをつけて
お祭り会場へ持っていく。

4．集まる

町中の鯉あかりがお祭り会場に集まり、
インスタレーション作品となる。

VP番号・名称 No.78	大堰公園から眺める大堰鯉と金山のまちなみ
タイトル	金山杉の鯉あかり
受賞者氏名	中家　由貴　様

【コンセプト】

- 金山杉の木材・布地といった自然素材を使い、金山町の落ち着いた景観の中で悪目立ちしないデザインにした。金山杉の温かみと鯉のモチーフで、金山らしさを表現している。
- 金山町のいたるところに、素材までは分からなかったが丸い籠のような灯りが取り付けられており、この灯りから着想を得た。鯉の形に編み上げた籠の中にはLEDライトをつけ、夜間は家々の軒先を優しく照らす。籠の下には金山杉か布地で作られた短冊が下げられ、夏に開催される金山まつりの告知が記される。表面は金山まつりの広告であるが、裏面には住民が自由に記入できるスペースがあり、願い事や思い出を書き込むことができる。観光客は鯉あかりに近づくことで金山まつりの情報を得ると同時に住民の思いに触れ、存在を感じられる。
- 鯉あかりは取り外しが可能で、金山まつり当日、住民は設置場所から取り外し、灯りをつけてお祭り会場へ持っていくことができる。町中の鯉あかりがお祭り会場に集まり、会場を一つの作品とする。

第5回やまがた広告景観コンテスト
【広告景観デザイン提案部門】
指定テーマ
「歴史や伝統のある建築物と調和する広告物」
山形県知事賞











VP番号・名称 №61	七日町通りからの文翔館の眺め
タイトル	音で物語を伝える 「さくらんぼの街灯型ラジオ看板」
受賞者氏名	菅原　香澄　様

【コンセプト】

- 五日に一度巻き上げる時計、今はもう作ることのできない手延べガラス、映画の撮影。写真には写らない、いろんな人の思いや,ここを歩いたかつての主役達を感じながら歩いたら、きっと小さな感動が増えるはず。
- 七日町の街灯ラジオを参考に、文翔館に息づいてきた物語を音で伝える看板を、正面玄関の両脇など巡り歩けるように配置。
- 文翔館講堂の漆喰細工に隠れる山形の特産品たち。素敵な職人魂と遊び心を見習って、さくらんぼが隠れた街灯型看板に、金属製の街灯型デザインで西洋風のシックな外観に馴染みながらも、さくらんぼを起点とした丸みのあるデザインがアクセントとなり、調和する。

第5回やまがた広告景観コンテスト
【広告景観デザイン提案部門】
指定テーマ
「歴史や伝統のある建築物と調和する広告物」
山形市長賞





VP番号・名称 №85	軍神・上杉神社を祀る美しき パワースポット上杉神社	【コンセプト】 ● 本計画は、上杉神社の参道において、単なる情報伝達（広告）を超え、場所の持つ歴史的な文脈を足元から静かに、かつ深く伝える景観施設として設計している。 ● 視界を遮る垂直な「看板」を一切排除し、サイン本体を地面（石畳）とフラットな「水平面」として設計した。これにより、舞鶴橋から本殿へと続く上杉神社独自の静謐な景観と空間の奥行きを、1ミリも阻害することなく完全に尊重している。 ● 素材には、経年変化（エイジング）により周囲の石や木々と馴染んでいく「真鍮」を採用。そこに刻まれた「これより米沢城本丸跡 上杉神社境内」という簡潔なテキストと上杉家の象徴（家紋、「毘」）は、歴史的な事実そのものが持つ力強さを、質実剛健なデザインとして伝えている。広告がそこに「ある」のではなく、地面に「沈む」ことで、訪れた人に場所の歴史性をより強く印象付ける、優れた体験型広告となっている。	第5回やまがた広告景観コンテスト 【広告景観デザイン提案部門】 指定テーマ **「歴史や伝統のある建築物と調和する広告物」** 東北芸術工科大学学長賞
タイトル	地中に沈む歴史の記憶		
受賞者氏名	平田　心　様		



広告本体



広告掲示の様子

現在の参道にある既存の街灯にフラッグ広告として設置。
モチーフとなった夜に行われる祈願祭当日の参道の様子を考慮し、
街灯に照らされる広告が祭りの雰囲気を演出することを目指した。

VP番号・名称 №86 縁を結ぶ熊野大社への参道と大銀杏の眺め タイトル 熊野大社の参道に掲示するフラッグ広告 受賞者氏名 赤尾　果鈴　様	【コンセプト】 ●熊野大社熊野大社で月に一度、満月に近い土曜日の夜に開催される「縁結び祈願祭 月結び」をモチーフにした。この祈願祭は、「古来から月に住むという伝説があるうさぎが縁を結ぶ動物といわれている」、「本殿裏に彫られている3羽のうさぎは、雨上がりの満月の日、水面に浮かんだ月にうさぎが映しだされ、風で揺れる月とうさぎの姿から「波にうさぎ」と呼ばれるようになった」ということに由来している。そこで、この作品は月明りに照らされた本殿に3羽のうさぎの影が現れる様子を表現したコンセプトの広告とした。 ●熊野大社につながる参道に掲示されるフラッグ広告とし、参道の雰囲気を壊さない落ち着いた色味と、夜に開催される祈願祭の当日の参道でも目立つ明るい月のデザインを意識した。	第5回やまがた広告景観コンテスト 【広告景観デザイン提案部門】 指定テーマ **「歴史や伝統のある建築物と調和する広告物」** 日本屋外広告業団体連合会会長賞